

# 第4学年 いきいきタイム学習活動案

日時	平成16年10月15日(金)	5校時
場所	4年1組・2組・3組・4組教室	音楽室B
児童	4年2組 男子13名 女子17名	計30名
	4年3組 男子14名 女子17名	計31名
指導者	井出 仁美 加藤 次郎	

## 1 単元名 「伝え合う心と心」

### 2 単元の目標

- (1) 障害を持つ人たちの立場や取り巻く環境に関心をもち、進んで調べたり体験したり考えたりしようとする。【総合への関心・意欲・態度】
- (2) 体験したことや考えたことををもとに、課題を理解することができる。【課題設定の能力】
- (3) 課題を解決するために、友達と協力して活動することができる。【協力・協調して活動する能力】
- (4) 「伝え合う」ことを意識し、何を伝えるかを考えながら、体験したり調べたりすることができる。【問題解決の能力】
- (5) 調べたり体験したりしたことをもとに、自分なりの意見をもち、その表現の仕方を工夫し、伝え合うことができる。【学習活動にかかわる技能・表現力】
- (6) 自分なりの考え方をもち、これからの生活に生かそうとする。【自己の生き方を考える能力】

### 3 単元について

#### (1) 設定の理由

本単元は、3年生から積み上げてきた地域の人とのかかわりをさらに継続発展させる学習として性格を持たせたいと考え設定するものである。

子どもたちは3年生のときから社会科見学をはじめ、総合的な学習の時間の中でもたくさんの地域の人たちと接してきた。また、地域に出かけていって、直接自分たちの目や耳、体を通して自らの課題を解決してきた。前単元でも岩崎川について1学期間を通し、実際に調べに出かけたり、役場の方や地域の詳しい方に話を聞いたりして地域学習を進めてきた。そのねらいは、地域の人たちが地域の発展のために、あるいは、矢巾町に住む多くの人たちのために、知恵を出し合い、汗を流し、そして、仕事に情熱を傾け生きている生の姿に接することにあった。その学習を通し、個人差はあっても「素晴らしい人たちがいる。」「あの仕事の仕方はすごいな。」「ぼくもあんな仕事がしたい。」という心を揺さぶる経験を数多くしてきた。

これまでは「仕事」という視点での学習であったが、本単元では「障害」という視点での学習としたいと考える。障害を持ちながら、たくましく生きている人たちの生き方やその実際に触れることで、障害を持つ方への偏見を取りのぞき、子供たち自身の考え方やものの見方に、4年生なりの深みや厚みを加わえたいと考え、本単元を設定した。

#### (2) 児童の実態

子どもたちは、1学期間、『岩崎川調査隊』というテーマで、社会科の上下水道やゴミの学習と関連づけて、実際に施設見学に行ったり、自分たちの課題解決のため何度も調査活動に出かけたりした。その調査結果に基づき、ポスター形式などでまとめさせ、グループごとに発表しあい、相互評価を行いお互いのよさを学びあった。その際、実物を使って説明したり、発表内容をクイズ形式で聞き手に問うたり、写真やグラフなどを用いたり、「聞き手に分かりやすく」を大分意識した発表会となった。この発表会の前に、5年生の発表会に招待され、発表のスピード、声の大きさ、多様な表現方法などなどよりよい方法を学ぶ機会が生かされたからであると思われる。しかし、日常の発表の仕方については個人差が大きく、授業中の発言の声が小さかったり、スピードが速かったり聞き手に分かりやすく伝えようとする態度や意識は、まだまだ十分とは言えない。

本單元にかかわる事前のアンケートでは、障害を持つ方をテレビなどで知ってはいるものの実際に話をしたり、遊んだりと直接触れ合った経験を持つ子は、かなり少ないということが分かった。子どもたちにとって障害を持つ方は、自分の生活とあまり関わりのない遠い存在であるといえる。また、『福祉』という言葉聞いたことがあるという子どもは多かったがその意味を理解している子どもは少なかった。「障害をもつ方についてどう思いますか。」という質問に対しては、「かわいそう。」とか「たいへんそう。」というように同情的な意見を書いた子どもが多く見られた。障害者が弱い立場であるというイメージを持っていることが伺われる。「何かしてあげたい。」という答えた子どもも見られた。しかし、よい考えをもってはいても自分の思いや考えをうまく言葉や行動に表せない子どもも少なくはない。

本單元は、『福祉』学習のスタートとして、障害をもつ方の立場に立つ体験や直接的・間接的に話を聞く活動などの交流学习を通じて、現時点の子どもたちの考え方や見方に揺さぶりをかけることにより、深みや厚みを持たせていきたい。そして、「だれかのために、自分にできるなにかをしたい。」という気持ちを培っていきたく考える。

### (3) 指導にあたって

「つかむ」段階では、道徳の資料を用いて障害をもつ方たちのことについて話し合い、スムーズに、簡単なキャップハンディ体験に結びつけ、「障害」という問題の意識をもたせていきたい。

「さぐる」段階では、障害をもつ方との交流と体験を重視していく。それは、体験をもとに、その実際場面と五感を使って感じたことや思ったことを、自分なりの事実としてとらえさせ、「話し言葉」や「書き言葉」として、自己評価的にまとめさせることにより、子供たちの考え方・見方に深まりをもたせ、それを意識づけたいと考える。

「まとめる」段階では、「誰に」という観点で相手意識をもたせながら、体験したり考えたりしたことをもとに発表方法・表現方法を工夫させていきたい。また、学級間・グループ間の相互交流の場を「中間発表」という形で設定することにより、お互いのよさを学び合うことを体験させたい。その中で、より相手に伝わる発表や話し方を相互評価させるとともに、他のグループのよさを見つけるという聞く観点を与え、自分たちのグループに建設的に生かすようにしていきたい。

「いかす」段階では、学年交流会を通し、感じたことをまとめさせ今後の生活に生かせるよう助言を与えていきたい。

各段階において、国語科『新聞記者になろう』で学習した事実の書き方と感じたことや考えたことを分けて書いたり発表したりする中で、次の学習での意欲づけを図りつつ、個々の子どもに意識の深まりを感じさせていきたい。

## 4 単元の活動計画 30時間扱い

段階	予想される児童の活動	時間	児童の活動を支援する手だて	評価の観点と評価計画	活動形態
つかむ	1 道徳資料『心の信号機』を読み、障害のある方について話し合う。 どんな障害をもつ方と接したことがありますか。	1	・道徳の時間を活用し、資料をもとにしながら、障害をもつ方と接した経験のある子の体験談も交え、関心をもたせる。		学級
	2 簡単にできるハンディキャップ体験をする。 目が見えないことってどんなことだろう	2	・グループ活動とし、本『みえないってどんなこと』を活用しながら体験内容を決めさせたい。体験する方と支援する方に分かれ、それぞれの立場で感じたことを	*活動したことを通し、テーマにそって感じたことをまとめることができたか。 【発言・ワークシート】	グループ

	<p>3 障害を持つ方について調べる。 どんな障害を持つ方がいますか。 《予想を立てる》 《調べ学習をする》 ・本やインターネット ・家の人に聞く。 《発表する》</p>	2	<p>まとめさせたい。 ・教師の方から課題を提示し、調べる観点も示し、単元全体を通した「障害」について共通意識をもたせたい。</p> <p>《調べる観点》 ・どのように話すか ・どのように聞くか ・どのように読むか ・どのように行動するか ・どのように見るか</p>	<p>* 調べる観点にそって調べることができたか。</p>	個人
	<p>4 いろいろな体験をする それぞれの障害をもつ方の立場になって体験をしてみましょう。 ・白杖体験 ・点字体験 ・手話体験 ・車椅子体験</p> <p>体験したことをスピーチメモにまとめ発表しよう。 ・事実 五感で感じたことと自分の考えと感想</p>	4	<p>・町内の福祉協議会の方に協力していただき、ハンディキャップ体験をする。その際、子供の興味・関心にそって選択させる。</p> <p>・国語『十才を祝おう』と関連づけ、話の中心や構成の仕方を工夫して発表会を開く。 ・発表会では自分の考えと比べさせたり、他の体験の様子を聞いたりすることにより、さらに詳しく調べてみたいことを意識させ、個人課題につなげていく。</p>	<p>【ワークシート観察】 * 積極的に活動し自分なりの感想をもつことができたか。 【観察ワークシート】</p> <p>* 自分の考えと比べ、よさを見つけることができたか。 【ワークシート】</p> <p>* 積極的にかかわりをもとうとしたか。 【観察 自己評価】</p>	個人
	<p>5 学習課題を設定する。 個人課題をつくろう 課題ごとにグループをつくり、学習計画をたてよう</p>	1	<p>* 最後には調べたことを工夫して発表することをあらかじめ示し、発表会を意識させ調べ学習に取り組ませていきたい。</p>	<p>* 個人課題を作ることができたか。 【ワークシート】</p>	個人 グループ
さ ぐ る	<p>6 計画にしたがって調べたり、体験したりする。 障害をもつ方との交流 ・ミニ講演会 ・ビデオ、映画 本インターネット 体験的な学習 施設の見学</p>	8	<p>* グループ活動だけでなく、全体で行う共通体験も入れ、課題解決の方法としたい。</p>		グループ

	7 これまでの学習をまとめる。 ・調べたり体験したりした事実 ・事実から分かったこと、考えたこと、感じたこと ・一番伝えたいこと	2	・これまで積み重ねてきた学習シートを活用し、個人でまとめたり、グループで話し合ったりしながら、「一番伝えたいこと」をまとめさせたい。		個人 グループ
まとめる	8 伝える方法を考える どんな方法で伝えますか。 《計画作り》 ・だれに ・どんなことを ・どのように 《準備》 ・シナリオ作り ・必要な物の準備 ・役割分担 ・練習計画 《練習》  中間発表会をしよう  《修正》 ・シナリオの修正 ・練習	8	*「目の見えない方に伝える。」 「耳の聞こえない方に伝える。」など、相手意識をもたせ、相手に合った方法を考えさせたい。また、手話や点字など、実際に学習した方法や、身体を使った表現の仕方も取り入れるよう支援する。  * 他のグループや学級の発表の様子を知り、自分たちの表現方法を見直す機会としたい。より伝わる方法について、グループごとに話し合わせていきたい。	* 伝える相手のことを考え方法を見つけることができたか。 【ワークシート観察】  * 計画に従って、積極的に準備を進めているか。 【ワークシート観察】  * 他のグループのよさを見つけ、自分たちのグループに生かすことができたか。 【ワークシート】	グループ
いかす	9 学年発表会を行う  10 単元を通した感想をまとめる。	1  1		* これからの自分の生活について考えることができたか。 【作文】	個人

## 5 本時の学習活動

### (1) ねらい

分かりやすく相手に伝わるように発表の準備や練習をする。  
他のグループのよさなどに気づくことができる。

### (2) 展開

段階	学習活動	時間	教師の支援(＊)と評価( )
つ か む	1 本地の学習内容を確認する  2 本時のめあてを確認する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">                     分かりやすく相手に伝わるように 発表の準備をしよう                 </div>	5	* テーマをふりかえり、相手に伝えるということを強く意識させる。  * 分かりやすく伝えるための視点を提示し、よりよい発表にしていくことを知らせる。
さ ぐ る	3 それぞれのグループごとに発表の準備を進める。 ・発表に必要な資料をまとめたり整理したりする。 ・発表のシナリオや分担を確認する。 ・発表の仕方を練習する。	25	* 活動の場所を設定し、児童が活動にふさわしい場所を選ぶことができるようにする。必要を思われる用具などを準備し、活動の手助けとする。  * 発表練習では、グループの評価シートを使用し改善点を考えさせる。  * まとめているグループでは、もっと分かりやすい資料になるように工夫の視点を助言する。  分かりやすく伝わるよう資料や話し方を工夫しているか。
ま と め る	4 活動の成果を発表する。 ・他のグループの発表を聞き、そのよさなどを話し合う。	10	* いくつかのグループに発表させることにより、そのよさなどに気づかせたい。  他のグループのよさに気づいたりアドバイスを考えたりすることができたか。
い か す	5 学習のふりかえりをする。	5	* 本時の学習をふりかえり、次時の活動の見通しを持たせる。